

タイトル	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
エダマメを育てて、調理をしよう。	中	生活G （理科、 職業・家庭）	

<ねらい> ・植物の成長について必要なことを知る。  
 ・植物の成長の観察を行うことができる。  
 ・簡単な調理方法（ゆでる・炒める）を知り、適した方法で調理をする。  
 ・必要な調理器具の名称を覚えて、適切に扱うことができる。

### 1. 生徒の実態

中学部の生活の授業では、発達段階別のグループ分けを行っており、本グループは新版K式発達検査（2001）において、3：7～4：0の発達段階の生徒5名で構成されている。中3の4人は、教師とだけでなく、友達同士で会話が弾んだり、遊びに興じたりするなど活発な集団である。中1の1人は、自閉スペクトラム症であり、他者との関わりはやや少ないが、簡単な文字を書いたり、読んだり、指示を聞いて活動したりすることなどは、みんなと一緒にすることができる。

### 2. 題材設定の理由～実際行った様子

中学部では「しごと」（職業・家庭）の時間などで、農作物を育てている。しかし、規模や週1回の授業であることを鑑みて、日々の手入れ等は教員が行うことが多い。そこで、プランターで、自分たちで土作りからエダマメを育てることにした。「生活」は、「国語・数学」の授業と生徒のメンバーや教員が重なっている。基本は、「生活」の時間に学習していくが、途中の観察や水やりなど、「国語・数学」の時間も活用しながら、発芽、開花などをタイミングよく観察させることができた。また、水やりなどは、主指導のクラスの生徒が毎日担うことによって、確実にいき、写真に収めるなどして、みんなで成長の様子を確認し合った。

また、同時にNHK FOR SCHOOLの動画を視聴することで、「水」や「太陽」がないと植物はどうなっていくか、確認し、その必要性を知ることができた。（実際、観察に行った際、日陰にあることに気付いた生徒が、日なたに場所を移動しようとした。）

5月初旬に植えをして、7月中旬にエダマメが実った。しかし、夏休みに入り、調理は、2学期に持ち越しとなった。その実ったエダマメは、枯れるまで置いておき、日干しをして2学期に「大豆」として収穫した。

途中経過の様子は教師が、日々写真を撮っておいたことで、エダマメから大豆になっていたことを写真で観察した。（このグループでは、夏休みに入ったことで、その理解までは難しい様子であった。）

2学期に入り、エダマメの調理実習を行った。その前段階として、いろいろな調理方法を動画やスライドを使って学んだ。身近な調理として、「焼く」調理として、焼き肉やハンバーグなどをそれぞれ思いつく様子が見られた。その流れで、「茹でる」方法や必要な調理器具などを学習し、調理実習をすることができた。

